



市立博物館特別資料展

「てきおう！先史松戸の生存戦略」・「牧を駆ける^{の ま ぶぎょう}野馬奉行^{もくし}・ 牧士^{もくし}・村人たち」

本展では考古、歴史、異なる分野の資料展を同時に開催します。

考古分野の展示では、松戸で人がくらしはじめてから約3万年の間にうつりかわってきた生態環境と、環境にうまく適応しながら生きた旧石器・縄文時代の人びとの生存戦略を紹介します。

また、歴史分野では、房総の牧を管理した野馬奉行^{の ま ぶぎょう}綿貫家、牧士^{もくし}として牧の実務にあたった千駄堀^{あんびる}安蒜家に伝来した新出資料を中心に、松戸市と深い関わりのある房総の牧をとりまく、江戸時代の環境と社会を探ります。

- 会 期 令和8年9月19日（土）～11月8日（日）
- 開館時間 9時30分～17時（入館は16時30分まで）
- 休 館 日 月曜日、なお月曜祝・休日の場合は開館し翌平日休館
- 観 覧 料 無料
- 会 場 松戸市立博物館企画展示室（松戸市千駄堀671）

●展示構成

（1）考古分野「てきおう！先史松戸の生存戦略」（展示資料131点）

序章 適応：環境変動とくらしのアップデート

松戸周辺の生態環境のうつりかわりと、適応戦略のあり方を概観します。

第1章 さむい！動物をおいかけよう。

氷期の冷涼な気候下では、狩りの対象となる動物が広範囲を移動するので、人びとも動物をおいかけて移動する遊動的なくらし方が選ばれました。ここでは、狩りに必要不可欠だった石器を展示します。石器づくりの技術からは、貴重な石材をできるだけムダなく使う生存戦略を知ることができます。



やさシティ、まつど。
matsudo

第2章 海だ！貝をひろいにいこう。

約 6000 年前の縄文時代前期は現在よりも海水準が高く、海が広がっていました。この現象を「縄文海進」とよんでいます。魚や貝などの水産資源が盛んに利用され、当時の海岸線沿いのムラには貝塚が形成されました。縄文海進期の代表的なムラである幸田貝塚で出土した、重要文化財に指定されている土器や石器を展示します。

第3章 森だ！クリの木をふやそう。

近年の研究で、縄文時代の人びとは環境に合わせてくらしを工夫しただけではなく、利用しやすいように環境を作り変えていたこともわかってきました。地中に残された花粉を利用して過去の植生を復元すると、松戸周辺では縄文時代中期ごろからクリの木が急増したことがわかりました。クリは食料としても木材としても有用な植物だったので、当時の人びとが意図的にクリの木を増やしたのではないかと考えられています。

<展示資料>



東内野型尖頭器
境外 II 遺跡
旧石器時代



深鉢形土器
幸田貝塚
縄文時代前期
重要文化財



深鉢形土器
中峠遺跡
縄文時代中期

（2）歴史分野「牧を駆ける-野馬奉行・牧士・村人たち-」（展示資料約75点）

I プロローグ 房総の牧

現松戸市域に広がった中野牧（小金牧の一部）を中心に、幕府が房総に設けた小金牧・佐倉牧・^{みねおか}峯岡牧の概要や、江戸時代の野馬（野生馬）について紹介します。

II ^{の ま ぶぎょう}野馬奉行と金ヶ作陣屋

小金綿貫家に伝来した資料を中心に、江戸時代初期から^{こがねおうまや}小金御厩を拠点に小金・佐倉両牧を管理した野馬奉行綿貫氏の由緒と職務を紹介します。さらに享保改革以降、小金五牧のうち中野・下野牧を支配した金ヶ作陣屋を紹介します。



やさシティ、まつど。
matsudo

Ⅲ 金ケ作陣屋と 牧士^{もくし}

^{せん だぼりむらあんびる}

千駄堀村 安蒜 家に伝わった資料を中心に、牧の実務を担った牧士たちの由緒とさまざまな職務を紹介します。また、松戸市域でおこなわれた徳川将軍の^{おしし}御鹿狩^{がかり}における牧士の活躍を、嘉永2年の資料を中心に探ります。

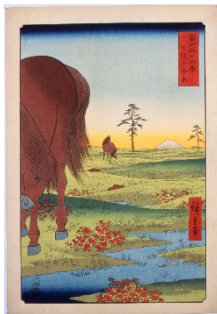
Ⅳ 牧付村のくらし

館蔵資料を中心に、牧周辺の村落が背負った様々な役目、金ケ作陣屋による野馬払い下げなどに注目し、牧が村々にもたらした負担と恩恵について考えます。そして、台地の環境と向き合いながら暮らしを営んだ江戸時代の村人の姿を、金ケ作村の事例から探ります。

Ⅴ エピローグ

享保期以降に小金牧周辺の開発が進み、幕末期にかけて縮小していく牧の様子を示します。

<展示資料>



富士三十六景下総小金原



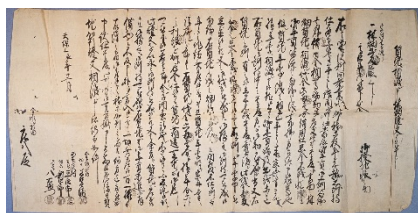
成田香取鹿嶋 下総道中細見記



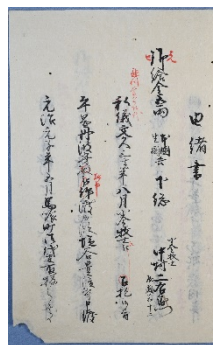
綿貫夏右衛門木札(個人蔵)



千駄堀安蒜家母屋模型
(渋谷文雄氏制作)



質地ニ相渡シ申林畑證文之事
(個人蔵)



牧士の由緒書(個人蔵)



温故東の花 将軍家於小金原御猪狩之図



しん坂 馬尽くし(野馬)



やさシティ、まつど。
matsudo

●関連イベント（※費用は無料）

（１）講演会

（１）-1 館長講演会「小金牧を支えた人びと-野馬奉行・金ケ作・牧士-」

講師 渡辺 尚志（市立博物館館長・一橋大学名誉教授）

日程 令和８年１０月４日（日）・１０日（土）※同じ内容となります。

時間 １３時～１５時

会場 松戸市立博物館 講堂

申込 事前申込制

（１）-2 学芸員講演会「古文書からさぐる松戸周辺の牧」

講師 富澤 達三（市立博物館学芸員）

日時 令和８年１０月１８日（日）１３時～１５時

会場 松戸市立博物館 講堂

申込 事前申込制

（１）-3 学芸員講演会「縄文人の生存戦略」

講師 西村 広経（市立博物館学芸員）

日時 令和８年１０月２４日（土）１３時～１５時

会場 松戸市立博物館 講堂

申込 事前申込制

（２）ギャラリートーク 学芸員が展示解説を行います。

（２）-1 こどものためのギャラリートーク（考古）

講師 市立博物館学芸員

日程 ９月２１日（月・祝）・２３日（水・祝）、１０月１０日（土）・２５日（日）

時間 ①１１：００～ ②１３：３０～（各３０分程度）

会場 松戸市立博物館企画展示室

※申込不要。開始時間に企画展示室前ロビーにお集まりください。

大人の方もご参加いただけます。

（２）-2 ギャラリートーク（考古）

講師 市立博物館学芸員

日程 ９月１９日（土）・２０日（日）・２２日（火・休）

１０月１１日（日）・２４日（土）※２４日は１１：００～のみ

１１月 ３日（火・祝）・７日（土）８日（日）

時間 ①１１：００～ ②１３：３０～（各６０分程度）



やさシティ、まつど。
matsudo

会場 松戸市立博物館企画展示室

※申込不要。開始時間に企画展示室前ロビーにお集まりください。

(2)-3 ギャラリートーク（歴史）

講師 市立博物館学芸員

日程 9月19日（土）・20日（日）・21日（月・祝）・23日（火・祝）

10月 3日（土）・4日（日）・12日（月・祝）・17日（土）

・18日（日）・31日（土）※18日は15：30～のみとなります。

11月 1日（日）・8日（日）

時間 ①10：00～ ②14：30～（各40分程度）

会場 松戸市立博物館企画展示室

※申込不要。開始時間に企画展示室前ロビーにお集まりください。

(3) ワークショップ

(3)-1 縄目もようのヒミツ

内容 縄を作って、粘土にもようをつけよう！

日程 9月19日（土）～23日（水・祝）、11月7日（土）・8日（日）

時間 10時～16時

会場 企画展示室ロビー

※申込不要。時間内随時ご参加いただけます。

(3)-2 土器のもようを写しとる

内容 展示資料と同じタイプの土器片（実物）の拓本をとってみよう！

日程 10月3日（土）・4日（日）

時間 10時～15時30分

会場 館内プレイルーム・森の工芸館

※申込不要。時間内随時ご参加いただけます。

(3)-3 木の実ひろいタイムアタック

内容 縄文人が食べた木の実を拾うのに何秒かかるかな？

日程 10月17日（土）・18日（日）

時間 10時～15時30分

会場 縄文の森

※申込不要。時間内随時ご参加いただけます。



やさシティ、まつど。
matsudo

(4) 展示をよ〜くみてワークシートに挑戦！

内容 展示物を見て問題を解いた方に、オリジナル缶バッジをプレゼント。

日時 会期中

景品交換場所 博物館内

申込 不要

(5) オリジナルグッズ販売

会期中、「小金五牧の野馬焼印」の絵柄がはいったオリジナルクッキーを販売

【本件に関する問い合わせ先】

〒270-2252 松戸市千駄堀671

松戸市生涯学習部 文化財保存活用課博物館

☎047-384-8278 FAX047-384-8194

✉ mchakubutsukan@city.matsudo.chiba.jp

開催時

令和8年度特別資料展

開館時間 = 9:30～17:00(入館は開館の30分前まで) **観覧無料**
休館日 = 毎週月曜日(ただし9月21日・10月12日は開館し、翌平日休館)
(11月3日(火・祝)は観覧無料デー)常設展も無料でご覧いただけます

牧を駆け巡った野馬奉行・牧士・
村人たちの実像に迫る

展示室2

牧を駆ける

野馬奉行・牧士・村人たち

後援 = (公財)松戸市文化振興財団、(一社)松戸市観光協会、
北総緑沿線地域活性化協議会、
協力 = 京成電鉄株式会社、流鉄株式会社

てきおう！ 関連イベント

学芸員講演会
「縄文人の生存戦略」
日時=10月24日④ 13:00～15:00
講師=当館学芸員 会場=博物館講堂
定員=75名(抽選) 申込=事前申込制
お申込み方法は下記をご覧ください

ギャラリートーク
9月19日④、9月20日④、
9月22日④⑥、10月11日④、
10月24日④、11月3日④⑥、
11月7日④、11月8日④
(60分程度)

ワークショップ
「縄目もようのヒミツ」
縄を作って、粘土にもようをつけよう
日時=9月19日④～9月23日④⑥、
11月7日④、11月8日④
10:00～16:00
会場=企画展示室ロビー
申込不要(上記時間内、随時ご参加いただけます)

こどものための
ギャラリートーク
9月21日④⑥、9月23日④⑥、
10月10日④、10月25日④
(30分程度) *大人の方も参加できます

ギャラリートーク/こどものためのギャラリートーク共通
時間=各日①11:00～②13:30～
*10月24日は11:00～のみ
講師=当館学芸員 会場=企画展示室
申込不要(時間になりましたら企画展示室入口にお越しください)

牧を駆ける

関連イベント

学芸員講演会
「古文書からさぐる
松戸周辺の牧」
日時=10月18日④ 13:00～15:00
講師=当館学芸員 会場=博物館講堂
定員=75名(抽選) 申込=事前申込制
お申込み方法は下記をご覧ください

ご好評につき今年も！ クッキー販売

小金五枚では全ての一歳馬に、印西牧はひょうたん、高田台牧は琴柱、上野牧は笠、中野牧はチドリ、下野牧は輪ちがいの焼印を押して見分けました。特別資料展を記念して、今回は小金牧の焼印にちなんだ模様のクッキーを販売します。

お申込み方法
当館ホームページにてご確認ください。応募者多数の場合は抽選になります。イベント内容はやむを得ず変更になる場合がございます。最新の情報をご確認のうえご応募ください。

交通案内
①京成電鉄松戸線「八柱駅」・JR武蔵野線「新八柱駅」下車、徒歩15分。または京成バス千葉ウエスト小金原団地循環バス案内所行新松戸駅行「森のホール21・公園中央口」下車すぐ。
②JR常磐線・武蔵野線「新松戸駅」下車、京成バス千葉ウエスト八柱駅行「森のホール21・公園中央口」下車、地下道通ってすぐ。

駐車場のご案内
来館者専用の駐車場はございませんので、21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用ください。(障害者専用駐車場有り。詳しくはお問い合わせください)

松戸市立博物館

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671 TEL.047-384-8181

当館HPはこちら
https://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/

ワークショップ
「土器のもようを写しとる」
展示資料と同タイプの土器片(実物)の拓本をとってみよう
日時=10月3日④、10月4日④
10:00～15:30
会場=博物館 プレイルーム/森の工芸館
申込不要(上記時間内、随時ご参加いただけます)
共催: 森のこども館

ワークショップ
「木の実ひろいタイムアタック」
縄文人が食べた木の実を拾うのに何秒かかるかな？
日時=10月17日④、10月18日④
10:00～15:30
会場=縄文の森
申込不要(上記時間内、随時ご参加いただけます)
共催: 森のこども館



博物館へ来る途中にこんな発見も！

金ヶ作陣屋跡標柱(松戸市常盤平) 八柱新八柱駅から北東に約400メートル進んだ辺りに、金ヶ作陣屋はありました。敷地は東西約200メートル、南北約150メートルで、役所のほか、裁判をおこなう白洲、野馬を飼う場所などがありました。八柱さくら通りには、陣屋前の標柱が立っています。



同展2

松戸市立博物館

2026.9.19^{Sat} - 11.8^{Sun}

展示室1

人びとは生活スタイルを選び
環境に適応しながら生きのびた

てきおう！ 先史松戸の生存戦略





深鉢形土器 (子口出水通路)

深鉢形土器 (子口出水通路)

深鉢形土器 (見木内通路)

深鉢形土器 (中峰通路)



クリの花粉

木本木だ！クリの木をふやそう

縄文時代の人びとは環境を利用しやすいように、積極的に作り変えていたこともわかってきました。土の中に残された花粉を分析すると、縄文時代のムラのまわりでは、クリやトチノキが自然ではありえないほど急激に増えているのです。クリやトチノキは食料としても木材としても重要な植物だったので、利用しやすいようにわざと増やしたのでしょう。

縄文

松戸で人が暮らし始めてから3万年。寒くなったり、暖かくなったり、海が広がったり。人びとをとりまく生態環境は長い時間の中でうつりかわってきました。旧石器・縄文時代の人びとは食べ物や道具の素材を森や海から手に入れて生活していたので、変化のたびに生活スタイルを調整し、環境に適應(てきおう)しながら生きのびました。松戸でみつかった土器や石器と近年の研究結果をつかって、環境とうまくつきあいながら生きた人びとの生存戦略を紹介します。



堅穴住居内の貝層 (幸田貝塚、縄文時代前期)

海だ！貝をひろいにいこう

今から約6000年前の縄文時代前期は現在よりも海面が高く、松戸にも海が入り込んでいました。この現象を「縄文海進」とよんでいます。海の資源が利用しやすい環境だったので、当時の海岸沿いにムラがつくれ、食べたあとの貝がらなどをすてた貝塚ができました。中でも幸田貝塚ではたくさんの堅穴住居跡がみつかり、大きなムラだったことがわかっています。



深鉢形土器 (幸田貝塚) 重要文化財



片口深鉢形土器 (幸田貝塚) 重要文化財



貝刃 (幸田貝塚) 重要文化財



尖形器 (子口出水通路)

きむい！動物をおいかけよう

今から約1万1000年前までは、氷期といって地球全体が現在よりも寒い気候でした。木の葉がとれる植物が少ない環境なので、狩りで手に入れる動物の肉が重要です。狩りには石器が欠かせませんが、千葉では石器作りに適した石があまりとれません。そこで、貴重な石材をできるだけムダなくつかって石器をつくる技術が開発されました。

深鉢形土器 (幸田貝塚) 重要文化財



金ヶ作陣屋

18世紀のはじめに金ヶ作陣屋(現松戸市常盤平陣屋前)が置かれ、綿貫氏から中野牧と下野牧の支配を引き継ぎます。近くには、断崖などのため陣屋を断れた村人たちを泊めたり、事務処理を代行する宿屋も置かれました。



富士三十六景 下小金原



徳川幕府の将軍家から小金原の村長へ送られた書状



寛政二相違申付相違文之事 (個人蔵)

牧を駆ける

野馬奉行・牧士・村人たち



寛政産牧牛改正後御用多々野馬奉行目録へ格上内野馬



猪の飼育 (個人蔵)

野馬奉行綿貫氏

江戸時代前期、小金五牧(印西牧・高田台牧・上野牧・中野牧・下野牧)と佐倉牧を管理したのが、のちの野馬奉行、小金町の綿貫氏です。



綿貫夏右衛門木札 (個人蔵)

江戸幕府は良馬を得るために、房総の台地上に小金牧・佐倉牧・峯岡牧を設けて、野馬(野生馬)を放し飼いにしました。現松戸市域には、小金牧の一部(中野牧)が広がるだけでなく、牧を支配する野馬奉行綿貫氏の小金御殿と金ヶ作陣屋が置かれました。本展では綿貫家と千駄堀安持家に伝来した新出資料を中心に、牧を駆け巡った野馬奉行・牧士・村人たちの実像に迫ります。

小金牧の牧士

広大な牧で業務にあたったのが千駄堀安持家をはじめとする村々に住む牧士たちです。牧の見回りや野馬捕りの仕事などを担いました。18世紀に行なわれた徳川将軍の御成敗では牧士たちも活躍し、馬を操って獣を追い立て、武士からも賞賛されました。



牧士の由緒書 (個人蔵)



鹿馬狩略



千駄堀安持家蔵馬具 (松戸市蔵)

牧周辺の環境と村人たち

牧周辺の村々(牧付村)には、野馬捕りの人足や、野馬が村に入るのを防ぐ野馬除土手の工事などの負担がありました。江戸時代後半には、小金牧の周辺部から内へと開発が進み、生産力の低い林畑などが拓かれます。林畑の産物として燃料の産物(そば、樹の枝のこと)があり、樹々も炭や薪になりました。

村人